

モモの新品種 ‘新白麗’ の育成

笹邊 幸男・藤井雄一郎

A New Peach Cultivar ‘Shinhakurei’

Yukio Sasabe and Yuichiro Fujii

特性の概要

緒言

岡山県のモモの品種構成は‘加納岩白桃’、‘白鳳’、‘清水白桃’及び‘白桃’など7月上旬～8月中旬に成熟する品種が多く、8月下旬以降の栽培品種は黄肉種の黄金桃を除いて非常に少ない。そこで、岡山県農業総合センター農業試験場では、8月下旬以降に成熟する白肉種の育成に力を注いできた。本報告では、当场が育種・品種登録した‘白麗’（笹邊ら，2001）の芽条変異株の中から成熟期が8月下旬であるモモ新品種‘新白麗’を育成したので、育成経過及び特性の概要を報告する。

育成経過

1991年に岡山県立農業試験場（現岡山県農業総合センター農業試験場）が選抜試験中であった‘白麗’を接ぎ木繁殖して現地試験用に66本配布したところ、1994年におけるその中の1本から成熟期が‘白麗’より遅い個体を発見した。当該個体は1999年から農業試験場内で特性調査を実施した。その結果、2004年に有望と判定し、2004年12月に品種登録申請を受理され（種苗法第17, 728号）、2007年3月に‘新白麗’として品種登録された（登録番号第15, 138号）。

1. 形態的特性

(1) 樹の特性

樹姿は直立形と開張形の間で、樹冠は大きく、樹勢は強く、枝梢の太さは中程度で、節間長は短い。生理的落果は‘白麗’や‘あきぞら’ほど発生しないため、豊産性である（表1）。花は普通咲きで大きさは中～大、花弁は楕円形である。開花期は‘白麗’より1～2日、‘あきぞら’に比べて3～4日程度早く、当场（岡山県赤磐市神田沖）において4月上～中旬に開花する。花粉は有る。成熟期は8月下旬（盛期8月24日）で‘白麗’より約2週間、‘あきぞら’より約1週間遅く、満開後141～150日に成熟する極晩生品種である（表2）。

樹勢が強い特性は‘白麗’に類似しているが、成熟期が遅いこと、生理的落果が少ないこと等で‘白麗’と区別性が認められる。また、‘あきぞら’に比べて花粉を有すること、樹姿が開張していること、樹冠が大きいこと、樹勢が強いこと等で区別性が認められる。

(2) 果実の特性

果実の外観は円形で、‘白麗’と類似しているが、果皮着色がやや多い点と果頂部縫合線の凹みが深い点が異なる。赤道部の縫合線も深く凹む。果実の大きさは330g

表1 ‘新白麗’の樹の特性

品 種 名	樹姿	樹冠	樹勢	生理的落果 ^z (%)	収量
新白麗	中間	大	強	0.3	多
白麗	中間	大	強	6.0	中～多
あきぞら	やや直立	中	やや強	7.5	中～多

^z 2007年における満開後90日の生理的落果率

程度で、‘白麗’や‘あきぞら’より大きい。収穫直後の果皮色は乳白色で、有底オレンジ袋を使用した有袋栽培の場合、着色範囲は少で着色程度は淡く、ぼかし状に着色する。裂皮はほとんどない（図1、表3）。

果肉は乳白色で、果肉の着色はほとんどないが、核周囲の着色は‘白麗’と同程度が多い（図2、図3、表3）。肉質は軟らかく、ち密であるが、繊維の多少は中である。果汁は多く、2002～2007年の平均糖度は14.2度と高く、pHは4.5程度で、酸味は少ない。渋味はない。食味は中上（食味値は9段階評価で6.2）で、‘白麗’の上中（食味値7.7）、‘あきぞら’の上下（食味値7.1）よりやや劣るが、糖度が高いため、極晩生品種としては優れる。核割れは‘あきぞら’より少ない。核は粘核であるため、果肉と離れにくい。日持ちは良好である（表3）。

‘白麗’と比較して果頂部の縫合線が深いこと、果実がやや大きいこと等で、‘あきぞら’と比較して花粉を有すること、果頂部の凹が深いこと、果実が大きいこと

等で区別性が認められる。

2. 栽培上の留意点

夏季の乾燥により果実にエグミが発生することがあるため、乾燥時にはかん水を行う必要がある。

摘 要

岡山県で育成選抜した‘白麗’から、芽条変異し、品種登録したモモ‘新白麗’は8月下旬に成熟する白肉種である。食味は‘あきぞら’に比べてやや劣るが、大果であり、生理的落果が少ないことから、安定生産できる品種である。

引用文献

笹邊幸男・藤井雄一郎・各務裕史・片岡正治・木村剛・紅谷文夫・平松竜一・依田征四（2001）モモの新品種‘白麗’の育成。岡山農試研報，19：25-27。

表2 ‘新白麗’の開花期及び成熟期^z

品 種 名	開花期 ^y			花粉	成熟期 ^y		
	始	盛	終		始	盛	終
新白麗	4/5	4/7	4/14	有	8/23	8/24	8/28
白麗	4/6	4/9	4/14	有	8/6	8/8	8/13
あきぞら	4/8	4/11	4/17	無	8/14	8/18	8/22

^z 供試樹の樹齢は2007年で‘新白麗’は9年生、‘白麗’は13年生、‘あきぞら’は2002～2006年まで2006年に15年生の樹、2007年は5年生樹を使用

^y 開花期及び成熟期は2002～2007年の平均値

表3 ‘新白麗’の果実の特性^z

品種名	果実重 ^y (g)	果皮色	果皮着色	裂皮	果肉着色	核周囲の着色	肉質	繊維の多少	果汁
新白麗	330	乳白	少(淡)	無	無～微	多	軟密	中	多
白麗	304	乳白	無～微	無	無	多	軟密	中	多
あきぞら	264	乳白	微	無	少	中	軟密	中	多
品種名	糖度 ^y (Brix)	酸味 ^y (pH)	渋味	食味値 ^{x,y}	核割率 ^y (%)	核の粘離	日持ち性		
新白麗	14.2	4.5	無	6.2	2.5	粘	良		
白麗	14.7	4.4	無	7.7	1.7	粘	良		
あきぞら	17.0	3.9	無	7.1	23.8	粘	良		

^z 供試樹の樹齢は2007年で‘新白麗’は9年生、‘白麗’は13年生、‘あきぞら’は2002～2006年まで2006年に15年生の樹、2007年は5年生樹を使用

^y 果実重、糖度、酸味、食味値、核割率は2002～2007年の平均値

^x 食味は1（下下）～5（中）～9（上上）の9段階評価とした

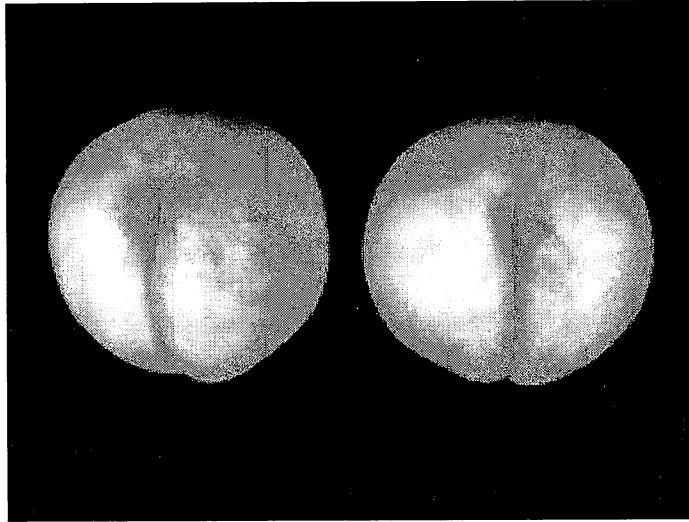


図1 ‘新白麗’の果実外観



図2 ‘新白麗’の果実縦断面

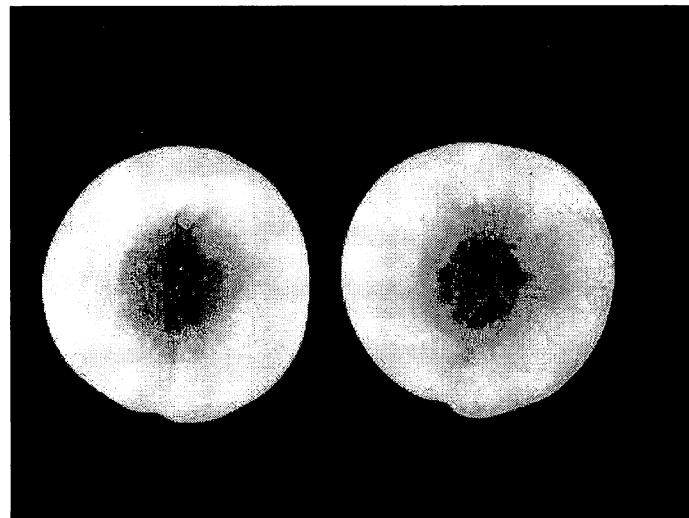


図3 ‘新白麗’果実の横断面